

2003年 12月 24日改定
2007年 3月 22日改定
2008年 9月 22日改定
2013年 11月 8日改定
2017年 8月 30日改定
2019年 10月 29日改定

日本結晶成長学会誌は日本結晶成長学会が発行する機関誌であり、和文または英文で書かれた結晶成長学に関する原著論文、総合報告、解説記事および学会として必要な記事などを掲載する。

1. 原稿の種類と体裁

- 1.1 投稿原稿はその内容が日本結晶成長学会誌の機関誌にふさわしい内容で、1.2に記載した掲載記事の種類の内いずれかに該当するものであること。
- 1.2 通常号の掲載記事の種類は原著論文、短報文、総合報告、解説、その他とする。各記事は概ね以下の内容に沿ったものとする。① 原著論文は、結晶成長学に関するオリジナルな内容をもつ論文で、同一内容が日本語原稿または欧文原稿として他に発表済み、ないしは発表予定のないものをさす。図、表を含めて原則として投稿要項に定めるA4原稿4頁以内とする。② 短報文は、速報的内容をもつ短い原著論文で、投稿要項に定めるA4原稿2頁を超えないこと。③ 総合報告は、著者自身の独創性のある研究を中心として、その分野全般にわたる最近の進歩とその背景を広い視野から総合的にまとめたもので、広範な文献引用がなされていることが望ましい。④ 解説とは、比較的一般性のある特定の主題についての記事で、専門分野以外の読者にもわかりやすい内容と表現になるよう配慮することが必要である。基本的な文献が引用されていることが望ましい。

2. 投稿者の資格

原則として著者のうち1名は日本結晶成長学会会員でなければならない。ただし、編集委員会で認められた巻頭言、依頼記事の執筆者はその限りではない。

上記以外の非会員からの投稿があった場合は、所定の審査を受け掲載が決定した際に著者は掲載費用として1万円を払わなければならない。ただし、掲載までに著者のうちの1名以上が日本結晶成長学会に入会した際には、掲載料の支払いを不要とする。

3. 原稿の取り扱い

- 3.1 原稿の作成は、電子ジャーナル用原稿テンプレートの「投稿要項」に従うこと。
- 3.2 著者は、オリジナル原稿を日本結晶成長学会事務局宛にメール添付で送信すること。

- 3.3 投稿原稿は所定の審査手続きを経た後に、編集委員会が掲載の採否を決定する。
- 3.4 編集委員会は著者に対して、掲載記事の種類の変更や原稿の修正を求めることができる。
- 3.5 著者校正は1回だけに止める。本文、図、表の大幅な変更は認めない。校正原稿をメールで受け取り後4日以内に、日本結晶成長学会事務局宛に返送すること。遅れた場合は編集委員会校正で校了とする。

4. 著作権

- 4.1 本誌に掲載された著作物の著作権は、日本結晶成長学会に帰属する。著者は必ず「著作権委譲許可書」を日本結晶成長学会に提出しなければならない。
- 4.2 本誌に掲載された、または掲載予定の著作物の一部または全部を他の雑誌または書籍等に転載しようとするときには、本学会の承認を得なければならない。ただし、自らの著作物を自ら他の著作物に転載する場合にはこの限りではない。この場合、転載された著作物が本誌に掲載されたものであることを明記しなければならない。
- 4.3 本誌に他の著作物（自著を含む）から、図表、写真あるいは文章の一部をそのまま転載する場合には、必ずその著者および発行者の許可を求めなければならない。手続きに関しては、著者が責任を負うものとする。許可申請書の見本を希望する者は、事務局に請求すること。

5. 電子ジャーナルの閲覧

電子ジャーナル論文のフルテキストへのアクセスは制限されている。アクセス制限について以下に記載する。

出版から1年間；

- (1) 個人会員：下記の会員は、電子ジャーナル『日本結晶成長学会誌』で閲覧が可能。
 - 日本結晶成長学会名誉会員
 - 日本結晶成長学会正会員
 - 日本結晶成長学会学生会員
- (2) 賛助会員、団体会員には、CD-R版『日本結晶成長学会誌』を配布する。

出版から1年経過後；

- (1) 個人会員：引き続き電子ジャーナル『日本結晶成長学会誌』で閲覧が可能。
 - 日本結晶成長学会名誉会員
 - 日本結晶成長学会正会員
 - 日本結晶成長学会学生会員
- (2) 会員以外の方も、J-Stageでの閲覧が可能となる。
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjacg/-char/ja/>

平成 15 年 12 月 24 日改定
平成 20 年 8 月 25 日改定
平成 25 年 11 月 8 日改定
平成 29 年 8 月 30 日改定
令和 4 年 4 月 1 日改定

1. 原稿用テンプレートについて

1.1 本文書について

本文書は、日本結晶成長学会誌に原著論文、総合報告、解説を投稿するためのテンプレートです。

1.2 テンプレートの設定

このテンプレートは、用紙サイズを A4 とし、ページの余白は上 25.4 mm、下 25.4 mm、左右 19mm に設定してあります。

文章は両端揃えとし、句読点は全角の「， .」とします。数式を記載する場合は数式用の書式・フォントを使用し、300 dpi 以上のビットマップイメージを別途作成し、本文に貼ってください。

なお、ページのセクション区切りは設定しないようにして下さい。

1.3 本文第 1 ページ目

冒頭の和文タイトルは MS ゴシック 16 pt. Bold, 和文著者名は MS ゴシック 12 pt. Bold, 英文タイトルは Arial 16 pt. Bold, 英文著者名は Arial 11 pt. Bold です。

また著者名の右肩に所属番号（上付数字）を入れ、Corresponding Author（連絡者）の所属番号（上付数字）の右に *（アスタリスク）を付けます。

1.4 英文アブストラクト

総合報告、原著論文、解説、短報文には、英文アブストラクト（150 語程度、短報文は 100 語以内）を付けます（Century 9pt. 行間隔は 13 pt.）。その他の記事にはアブストラクトは不要です。

1.5 本文中の見出し

本文(和文)には MS 明朝 9pt. を使用し、大見出し(例_1.はじめに)に MSP ゴシック 10.5pt. Bold を使用します。小見出し(例_1.1 結晶成長)に , MSP ゴシック 9pt. Bold を使用します。

本文(英文)には Century 9pt. を使用し、大見出しに Arial 10.5pt. Bold を使用します。小見出しに , Arial 9pt. Bold を使用します。

1.6 ヘッダおよびフッタ

全てのページにヘッダおよびフッタが入ります。ヘッダは事務局が作業をしますので、記載は不要です。

1 ページ目のフッタには和文の所属機関と住所 (MS 明朝 8pt.) に英文の所属機関と住所 (Century 9pt.) が、1 行ずつ記載。3 行目に Corresponding Author (連絡者) の E-mail

アドレスを記載してください。フッターには、ページ番号が入ります。

2. 執筆要領

2.1 本文の書き方

原則として常用漢字、現代仮名遣いを用いる。用語は文部省制定のものを用いることが望ましいのですが、人名、地名と日本語になりきっていない用語などは原綴を用いてください。謝辞以外には称号を用いないことになっています。

2.2 図, 写真, 表

図, 写真, 表は最小限にとどめる。和文, 英文とも図と写真は通し番号にして, **Fig.1** のように, 表は **Table 1** のように表示します (Arial 9pt.)。本文中に最初に出て来る図番号だけを和文, 英文とも Arial 9pt. Bold にしてください。

2.2.1 図, 写真, 表中の文字および図, 写真, 表の説明

図, 写真, 表の中の文字および図, 写真, 表の説明文 (Arial 9pt.) は, すべて英文とし, 本文の原稿に挿入してください。その際に図の説明は図の下に, 表の説明は表の上に置いてください (センタリング)。その際に本文と図の説明, 図の説明と図の間のスペースを詰め過ぎないようにしてください。

2.2.2 図, 写真の解像度

図, 写真は鮮明なものを用いてください。できればカラーで提出することをお勧めします。

2.2.3 脚注

本文中での注 (説明事項) はすべて脚注とし, 肩書き*)、**) (上付き) で表記します。それを本文の最後 (謝辞および参考文献の前) に一括して貼り付けてください。

謝辞

謝辞 (和文) には MS 明朝 9 pt. を使用。

参考文献

参考文献は本文末尾に一括し, 段落番号を使用して, 本文中にでてくる順番で並べます (Century 9pt. 行間隔は 13 pt. 両端揃え)。本文中では肩書き^{1),2)} (上付き) の形をとります。文章の最後に入れる場合には, 「である^{1),2)}。」の様に読点の前に肩書き^{1),2)} (上付き) を入れてください。文献は, 著者名: 雑誌略名, 巻/ Century 9pt. Bold (発表年) 頁 あるいは 著者名: 書籍名 (出版社, 発行年) の形で示す。なお, 複数の著者名を記載する場合は et al を使用せず, 列挙してください。

雑誌

- 1) D. Bahat: J. Mater. Sci., **5** (1970) 808.
- 2) H. Matsunami: Mater. Sci. Eng. R, **20** (1997) 125.
- 3) Y. Katamune, S. Ohmagari, and T. Yoshitake: Jpn. J. Appl. Phys., **51** (2012) 078003.
- 4) H. J. Scheel and E. O. Schulz-DuBois: J. Cryst. Growth, **8** (1971) 304.

書籍

- 5) A. R. Ubbelohde: *Melting and Crystal Structure*, (Clarendon Press, 1965).
- 6) S. Lawrence, and D. Kania: *Diamond*, (Kluwer Academic Publishers, 1995).

7) I. Finnie : *The Mechanism of Erosive Wear in Ductile Metals*, K. Natesan (Ed.), (The Metallurgical Soc. of AIME, New York ,1980).

8) S.K.Sikka: in *Proc. the xiii AIRAPT Intl. Conf.on Crystal Structure*, A. K. Singh (Ed.), (Oxford and New Delhi,1992).

投稿中・私信

9) A.Jayarama:Rev.Mod.Phys. (submitted).

10) K.Kakimoto (private communication).

5. 原稿の送付先, 問合せ先

〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目11番4号

大阪駅前第4ビル9階923-1125号

株式会社ポラリス・セクレタリーズ・オフィス内

日本結晶成長学会事務局 (編集担当)

FAX : 06-6345-7931

Email : henshu@jacg.jp